

2023 北海道レフェリーアカデミー第1回 事業報告

報告者：岩本駿士（札幌）

【日時】2023年4月8日（土）、4月9日（日）

【場所】札幌北区民センター、札幌大谷高校丘珠グラウンド

【参加者】審判員：高須賀哲平、丑屋幸大、及川凌夢、岩本駿士

インストラクター：古曾部統太郎氏（RAM）、今川一輔氏（RAI）、  
伊藤真也氏（RAI）、岡田渉氏（RAI）

4月8日

12:50 集合 札幌北区民センター

13:00 開校式 古曾部統太郎 RAM

開校式では、アカデミーの概要やアカデミー生として求められるものについてお話があった。

「10～15mの距離で」「横から監視して」「迷わず笛を吹く」を1年目のレフェリングの重点項目として確認した。



14:00 講義「Referee physical 要素とは」 岡田渉 RAI



本講義では、Referee physical についてなにかについて、グループワークも交えながら考え、physical はパフォーマンスのほんの一部であることを学んだ。アカデミー4期生の physical テーマとして「行動」「言動」「動機」「動力」の4つを大切にするという意味で、「動」が挙げられた。

15:00 講義 理想の審判員・アカデミーのテーマ決め 古曾部統太郎 RAM

本講義では、自身の理想の審判員像についてドローイングという手法を用いて行われた。

また、4期アカデミーのテーマとして「No Referee No Grow」として決定した。このテーマは直訳すると「審判なくして成長なし」となるが、RACを通じて人間としても審判員としても成長しようという想いを込めた。



16:00 打ち合わせ 2023年度地域レフェリーアカデミー開校式について 古曾部統太郎 RAM

この打ち合わせでは4月25日に行われる地域レフェリーアカデミー開校式についての説明があり、北海道レフェリーアカデミーの紹介に向けて打ち合わせを行った。

17:00 諸連絡・解散

4月9日

9:00 集合 札幌大谷高校丘珠グラウンド

10:00 実技 札幌大谷高校 vs 北海道コンサドーレ札幌U-18

45分1本目 R:高須賀 A1:及川

#### 【自己分析】

試合を通して判断に迷うような事象はなく、選手は自分の判断基準を受け入れてフェアにプレーをしてくれた。また、自分のストロングポイントである幅広く動くことは自分の中の目標に達したと考える。しかし、両チームのビルドアップしている時、ポジションが高すぎたため、何か起きた際には対応が遅れ、信頼の無い判定と思われる位置だと感じたため、常にアンテナを張らせ、警戒心を持つ必要があると感じた。

#### 【INS分析】

スプリントは魅力的であった。また、マネジメントに取り組む姿勢は評価できるものだと考える。札幌大谷GKを中心にボールがポゼッションしている際の危機管理を認識してもらいたい。

45分2本目 R:丑屋 A1:岩本

#### 【自己分析】

DOGS0のシーンでの確な判定をすることができなかった。ファウルの基準はおおむね一貫していたと自己分析しているが、試合の強度にあった基準であったかどうかは課題が残った。を感じた。DOGS0とSPAについての再確認と理解が必要であることと、試合の強度や選手の意図を感じ取り、取るファウルと取らないファウルの判断をすることの2点を今後の課題としたい。

#### 【INS分析】

概ね判定基準は受け入れることができるものであったが、ファウルと判断して欲しい接触もあった。KI(キーインシデント)となる21分のDOGS0のシーンは退場とすべき事象。改めて競技規則の理解と解釈(4要件)を整理したい。

45分3本目 R: 及川 A1: 高須賀

【自己分析】

ファウルの判定に関して、基準は一定していたと思う。開始早々のコンサ 19 番の後方からのプッシングはファーストファウルということもあり、この試合の基準を示すという意味でも試合を止めて注意する必要があると考える。27 分のアドバンテージを適用したファウルは、コンサの攻撃のチャンスを大谷の選手がボールにプレーしようと試みず、手を用いて攻撃のチャンスを阻止したため、警告が必要であったことが、映像からも認識できた。

【INS 分析】

ファーストファールの笛のタイミング、笛の音量、争点からの距離ともに素晴らしかった。また、アドバンテージの適用についても的確で有効的であったように思う。ファウルであったが選手が何も言わないのでノーファウルにしたように見えた事象もいくつかあったので、まずは素早い判断で笛を吹いてほしい。また自己分析の通り 27 分のアドバンテージには警告が必要でした。

30分×2 R: 岩本 A1: 丑屋

【自己分析】

PK のシーンについて、いい角度で判定はしたが、動きの中での判定で体が縦に揺れていた状態だったため、動体視力が少し落ちた中での判定であった可能性がある。バイタルエリア付近は身体の使い方にも気を付け、バイタルエリアに至るまでの動き方やポジショニングも考えていかなければならないと感じる。また、GK からのビルドアップで守備側競技者が GK にプレッシャーをかけているにも拘わらず、ポジションを下げて監視していないことが多くあったので、GK からボールを奪う可能性も考えて下がって監視するなどしたい。

【INS 分析】

PK の判定は、一番近くで監視していた主審の決断を尊重します。しかし、PK マネジメントは改善の必要があります。PK 時に主審が確認することは何か？ 主審のポジションはどこにとるべきか？それはなぜか？まずは自分自身で考えて整理して欲しい。(次回アカデミーの講義でも整理する予定) 動きについては改善点ばかりでなく、39 分、49 分のカウンターに応じたスプリントなど、とても魅力的でした。

14:00 振り返り

15:00 諸連絡・解散

